

(報告書様式 C)

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	愛 知 県
-------	-------

学校の概要 (平成 1 5 年 4 月現在)

学校名	額田町立額田中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	3	2	1 2	3 2
生徒数	9 5	1 2 4	9 8	5	3 2 2	

研究の概要

1 . 研究主題

確かな日常で、心豊かな生徒の育成 基礎・基本を定着させ、確かな学力を身につける授業のあり方について
--

2 . 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 ・全学年・英語 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 ・2 , 3 年生・選択数学、選択英語 個々の生徒の状況にあったいくつかの習熟度別クラスをすることで、補足的な指導や発展的な指導を行うため。

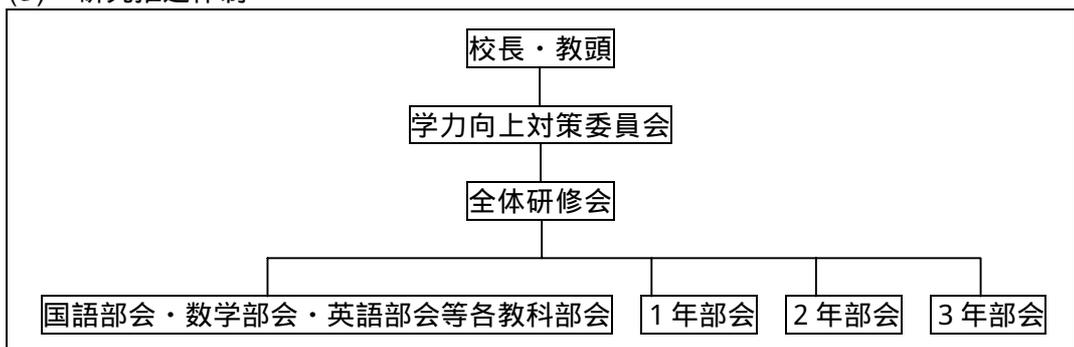
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	テーマ 基礎・基本を定着させ、確かな学力を身につける授業のあり方について 研究の見通し わかる楽しさのある授業を展開するために、一人一人の能力や個性に応じた学習指導を工夫し、主体的な学習の取り組みと確かな学力をつけていく。 研究の内容・方法 数学、英語の授業を中心に T T による指導、等質あるいは習熟度別や希望選択別の少人数指導など生徒に応じた多様な指導法を展開する。 数学：各学級二人の指導者で少人数指導等を実施する。数学のおもしろさ、数学的な考え方のよさを学ぶと共に、基礎的な知識と技能の習熟を図る。 英語：各学級二人の指導者で少人数指導等を実施する。コミュニケーション能力の育成を目標に、効果的な教材開発に努める。 選択授業における補足的な学習と発展的な学習の充実を図る。
--------------------	---

平成 16 年 度	テーマ よりよい人間関係の確立に努め、基礎・基本を定着させ、確かな学力を身につける授業のあり方について 研究の見通し 日々の授業、基礎学力の定着をめざすドリル学習の時間、読書活動等の関連をみにつめ、学習成果を認め意欲を高めていく生徒を育成する。
--------------------	---

	<p>研究の内容・方法</p> <p>数学と英語において、学習段階や学習内容に応じたT Tによる指導、等質あるいは習熟度別や希望選択別の少人数指導のあり方をさらに深める。</p> <p>個に応じた指導のための学習教材の開発を行う。</p> <p>選択授業において、地域社会がもつ人材・教材の発掘に努め、導入する。また2、3学年で補充的な学習と発展的な学習の充実を図る。</p> <p>読書活動・ドリル学習の時間の確保と指導法の研究を行う。</p>
--	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>教科担任制の中学校において、学力の向上のために、何から手をつけたらよいのかと探ってきた。それには、日々の学校生活に安心感と自信を持ち、前向きな生徒を育てることが基盤であり、その当たり前の生活を保障していくための努力を続けていくことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導やT Tによる指導を行うとき、生徒の実態把握、そして教材の工夫、指導形態の工夫等の情報交換が必要になってくる。この情報交換が機能していくと、授業がうまくいき、生徒を伸ばすことにつながる。 ・単元の段階や学習内容で、T Tによる指導、等質あるいは習熟度別や希望選択別の少人数指導とフレキシブルな指導形態をとることによって、その長所を生かし、短所を補うことができる。 ・つけ法（机間指導）をするには、視点をもって巡視し、一人にかかる時間は短くすばやく回ることが必要である。 ・学ぶ習慣や学び方を身につける指導にも力を入れることが大切である。 ・コース選択の機会を増やすことによって、自分に合ったコースを選ぶ力が育ってくる。
--

2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導やT Tによる指導を行うとき、教師間の情報交換の時間がなかなかとれないことが課題である。 ・授業過程のどの場面でつけ法（机間指導）をするのかをさらに工夫したい。 ・授業の時間以外にも生徒の学習への取り組みを把握し、きめ細かな指導に力を入れていきたい。 ・研究推進の組織を見直し、全校体制で研究に取り組みたい。 ・研究成果の普及活動をより推進していきたい。

学力把握のための学校としての取組

- ・ 教研式新学年別知能検査（第1学年、第3学年、4月初旬実施）
生徒個々における一つの能力として実態把握するために実施。
- ・ 教研式全国標準学力検査（全学年、4月初旬実施）
学級学年集団の学力構造および個々の生徒に形成された学力の状態を相対的に把握するために実施。知能検査の結果との相関も見ている。
- ・ 定期テスト（全学年、1学期2回・2学期2回・3学期1回）
約2か月間の学習成果を定期的にとらえていくために実施。
- ・ 地域学力テスト（第1,2学年1回-2月、第3学年3回-各学期）
中学校における既習事項についての学力把握のために行っている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 額田中学校ホームページへの研究結果の掲載。
- ・ 研究紀要の作成。
- ・ 16年次には、授業研究会により地域あるいは周辺校への公開等を行っていく。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	